

～体育大会号～

Newspace

郡山東高校新聞速報版97号

編集・発行
郡山東高等学校新聞部
発行人 松本 優衣
編集人 荒川 理薫
〒963-8832 福島県
郡山市山根町13-45
電話 024-932-0898

体育大会で東生大奮闘

今年14、15日の2日間にかけて校内体育大会が開催された。全20クラスが持つ限りの力を発揮し、非常に大きな盛り上がりを見せた。今年も新型コロナウイルス感染症予防のために編成がリレーに変更になった。開会式は晴天の中、グラウンドで行われた。2日間、グラウンドや体育館では白熱した試合が繰り広げられ、東生は大きな奮闘を見せた。



総合優勝 3年7組



総合2位 3年2組



総合3位 3年1組



↑長縄跳び1位 3年7組



↑リレー1位 2年3組



↑女子バドミントン1位 3年1組



↑男子バドミントン1位 3年7組



↑男子バレーボール1位 3年7組



↑男子サッカー1位 3年1組



↑男子バスケットボール1位 3年7組



↑盛り上がりを見せた女子バドミントンの試合



↑女子バレーボール1位 1年5組



↑女子バスケットボール1位 3年3組



↑女子サッカー1位 3年7組

今年度は晴れて3年7組が総合優勝に輝いた。また、総合2位は3年2組が勝ち取った。グラウンドで行われた開会式で、中野隆幸校長先生は「今日を通してクラスで団結を深めて、体調管理とルールを守って素晴らしい大会になることを願っている」と東生を激励した。生徒会長の須藤順子さん(3年)は「けが無く、熱中症なく、感染症対策をしっかりとして大会に挑みましょう」と東生を鼓舞した。その後、柏尾海斗さん

(3年)と今石敦也さん(3年)が「練習の成果を十分に発揮して、先手を感動させなかせよ」と力強く選手宣誓をした。また、橋本元太さん(3年)と渡邊輝磨さん(3年)が競技上の注意を話し、共通種目2種を含む全6種目が厳正なルールのもと行われた。

1日目はリレーの予選と決勝、バスケットボール、バドミントンなど4種目の予選が行われ、各クラスが団結を深めた。2日目は長縄跳びや1日目で勝ち進んだクラスの決勝戦が行われ、それぞれ

のクラスの歓声や応援の声を非常に大きな盛り上がりを見せた。(つづ)

【男子】
●バスケットボール
1位 3年2組
2位 1年2組
3位 2年6組

●バレーボール
1位 3年7組
2位 3年5組
3位 2年6組

●バドミントン
1位 3年4組
2位 3年2組
3位 3年7組

●サッカー
1位 3年1組
2位 3年7組
3位 2年1組



↑白熱した試合となったエキシビジョンマッチを終えた先生方と女子バレーボール部員

新聞部員募集
新しいことを始めたい
文・写真に興味がある
青春したい人
初心者も体育会系も!
男女問わず大歓迎

私たちと一緒に
剣ではなくペンで
戦いませんか?

東生手記

私は小学校5年生のころ、クラスメイト全員から存在しない人として扱われてきた。きっかけは友人との些細な言い合いからだった。容姿や性格をすべて否定され孤独感を味わった。そのときの私に大人は「頑張れ」や「逃げてもいい」と声をかけた。しかし、どの言葉も私にはしっくりとこなかった。何を頑張れば状況が変わるのか。誰かに逃げ出せばいいのか。ただつらい毎日を送っていた。たまたまこの状況から私を救ってくれたのは祖父の「頑張る過ぎずに頑張るいなさい」という言葉だった。この言葉を聞いた瞬間に私は体が軽くなった気がした。何かを変えたい。頑張らなければならぬ。しかし、頑張る過ぎると自分を追い込むことになる。そして、毎日悲しい顔をしているよりも笑顔でいるほうが気分も明るくなる。こう考えられるようになってから、私は毎日を楽しく過ごすことができた。結局は時間が全てを解決し、小学校を卒業する前にはクラスメイトと仲良くなっていた。直接的な謝罪はなかったが、元の生活に戻れて嬉しかった。▼中学生になってからは自分を褒めようとしたが、なかなか変わることができず、学校にうまくなじむことができなかった。そんな私に祖父はまた同じ言葉をかけた。息をすめることが楽になり、周りの目を気にしすぎる自分を褒めるために、自分の興味があることに挑戦した。学級委員長や生徒会役員を務め、人前に立つ仕事をした。失敗もたくさん学ぶことができた。毎日幸せを感じることができた。▼新型コロナウイルスが収束したら、祖父に会いに行きたい。まっすぐ目を見て、私は今、幸せで笑顔でいますと伝えたい。(りか)

